

令和 4 年 5 月 9 日現在

機関番号：13901

研究種目：奨励研究

研究期間：2021～2021

課題番号：21H03931

研究課題名 古典教育における読解リテラシーの総合的研究 小中接続・高大接続を意識して

研究代表者

加藤 直志 (Kato, Tadashi)

名古屋大学・教育学部附属学校・国立高等学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 390,000円

研究成果の概要：種々の学力調査から、日本の子ども達は、自分の考えを根拠に基づいて説明することを苦手とする傾向が指摘されてきた。また、古典学習に興味・関心を持ちにくい学習者が増えているといったことも問題視されている。この両者の課題に対応するため、小学校と中学校、高等学校と大学といった、校種間の接続を考慮しながら、教育心理学の方法を援用した学習方法（協同的探究学習）やくずし字・古典籍を用いた新しい古典指導などを研究・実践し、その有効性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自分の考えを根拠に基づいて説明する力を育成することは、概念的理解の深化につながる点で心理学的な学術意義が大きい。同時に、国語科に限らず教科内容を深く理解する上でも重要な能力であり、その力を向上させるための方法を探ることには社会的意義も大きい。これに、くずし字・古典籍を用いた新しい古典指導を組み合わせることで、古典への興味関心を深めたり、我が国の言語および文化への歴史的側面からの深い理解を促したりする指導法の開発にもつなげた。このことは、人文学的思考力の涵養という点で学術的意義・社会的意義ともに大きい。

研究分野：国語科教育および日本文学

キーワード：協同的探究学習 わかる学力 古典教育 くずし字による古典教育 和本リテラシー 和本・古典籍を用いた古典教育

## 1. 研究の目的

種々の学力調査から、日本の子ども達は、自分の考えを根拠に基づいて説明するといった、「読解リテラシー」を苦手とする傾向が指摘されてきた。この課題に対応するため、新しい学習指導要領においても、自身の考えを表現する力をつけることが重視されている。また、古典分野においては、小学校でも、仮名の歴史を学ぶ単元が加わるなど、古典を学ぶ意義を理解させ、興味関心を喚起する指導がますます求められている。これらの教育課題に対する有効な指導方法を、特に校種間の接続を意識しながら、開発・実践することが本研究の目的である。

## 2. 研究成果

「研究の目的」で記した課題に対応するため、本研究では、協同的探究学習や、くずし字や和本（古典籍）を活用した古典指導に取り組んだ。協同的探究学習については、研究指導者である藤村宣之氏（東京大学大学院教育学研究科教授）の指導助言のもと、勤務校において年間を通じて実施し、勤務校が主催した「2021年度 WWL 協同的探究学習指導法研究会（2021年7月）」や「協同的探究学習研究交流会（2022年2月）」において、その成果を公表した。くずし字や和本（古典籍）を用いた古典指導については、加藤弓枝氏（鶴見大学文学部教授）、三宅宏幸氏（愛知県立大学日本文化学部教授）の協力を得て、2021年9月および2022年3月に、勤務校で特別授業を実施し、「同志社大学古典教材開発研究センター第2回研究集会（2022年3月）」において、その成果を報告した。コロナ禍による開催だったため、教育関係者等に授業を参観していただくことがかなわなかった点が残念ではあるが、一方で、オンラインによる報告会となったことが功を奏し、他校から多くの教員の参加を得ることができた。特に後者については、国内のみならず、海外在住の日本研究者の参加も多く、250名ほどの申し込みがあった。小・中・高校・高専・大学の教員や学生・院生、学芸員・図書館司書など、古典籍・文化財や国語科教育に関係する多くの方々との意見交換することができた。

反省点としては、大学教員との連携を深めながら、中等教育と高等教育との接続を意識した授業実践を行うことができたが、小学校教員との連携がまだ不十分であり、今後の課題といえる。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志                                       | 4. 巻<br>30            |
| 2. 論文標題<br>くずし字による古典教育の試み・中古文学編 - 研究と教育という 両極 -      | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>古代文学研究 第二次                                 | 6. 最初と最後の頁<br>184-194 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.50845/kodai bungakuken | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸                                    | 4. 巻<br>66            |
| 2. 論文標題<br>くずし字による古典教育の試み（6） - オンライン授業で学ぶ・『伊勢物語』から『仁勢物語』へ - | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要                               | 6. 最初と最後の頁<br>135-150 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.18999/bulsea.66.135           | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                       | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>加藤直志                              |
| 2. 発表標題<br>こんな教材を作ってみた！ - 「和本バンク」を利用した出前授業 - |
| 3. 学会等名<br>同志社大学古典教材開発研究センター第2回研究集会（招待講演）    |
| 4. 発表年<br>2022年                              |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>加藤直志                     |
| 2. 発表標題<br>『古今和歌集』の恋の歌をくずし字で読んでみよう！ |
| 3. 学会等名<br>協同的探究学習研究交流会             |
| 4. 発表年<br>2022年                     |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤直志   |
| 2. 発表標題<br>いま教育現場で求められている教材とは何か？                                |
| 3. 学会等名<br>同志社大学プロジェクト科目 「教科書に載っていない古典の魅力を探るくずし字教材の開発と実践」(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤直志                         |
| 2. 発表標題<br>「国語」(中学3年生)における協同的探究学習授業アイデア |
| 3. 学会等名<br>2021年度 WWL 協同的探究学習指導法研究会     |
| 4. 発表年<br>2021年                         |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織(研究協力者)

| 氏名    | ローマ字氏名              |
|-------|---------------------|
| 藤村 宣之 | (Fujimura Nobuyuki) |
| 加藤 弓枝 | (Kato Yumie)        |
| 三宅 宏幸 | (Miyake Hiroyuki)   |